

Relevant Disclosure

There is a description on a note displaying body 6 in shape of hexagonal column and rotatably disposed on the keyboards in page 3, line 8 to line 11 of the Japanese Unexamined Utility Model Specification JPU1989-017598 which reads as follows: A display surface 7 for displaying notes and the like is formed along with the shaft center of the note displaying body 6 which is in shape of hexagonal column. Notes relevant to a particular musical scale is displayed on the display surface 7 in a manner to correspond to each key of the key-board 2.

公開実用 昭和64- 17598

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭64- 17598

⑬ Int.Cl.¹

G 10 G 7/00
G 10 C 3/00

識別記号

府内整理番号

Z-6789-5D
Z-6789-5D

⑭ 公開 昭和64年(1989)1月27日

審査請求 有 (全頁)

⑮ 考案の名称 鍵盤楽器の演奏補助具

⑯ 実 願 昭62-112547

⑰ 出 願 昭62(1987)7月21日

⑱ 考案者 石塚 紀一 京都府京都市右京区太秦面影町2番地40

⑲ 出願人 石塚 紀一 京都府京都市右京区太秦面影町2番地40

⑳ 代理人 弁理士 大西 哲夫



明細書

1. 考案の名称

鍵盤楽器の演奏補助具

2. 実用新案登録請求の範囲

鍵盤楽器 1 の鍵盤 2 の左右側のテーブル状段部
3 又は鍵盤 2 に面した立壁 10 等に設けられる左右一対の支持台 4 に音符等表示体 6 が回転可能な状態で渡されており、この音符等表示体 6 がその軸心に沿う二面以上の音符等表示面 7 を有する多角柱又は円柱となされており、これら音符等表示面 7 ごとに各鍵盤 2 に対応するようにして所定の音階における音符等が表示されている鍵盤楽器の演奏補助具。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この考案は、ピアノ等鍵盤楽器の演奏補助具に関する。

(従来の問題点)

ある音階で記された曲をその楽譜を見て他の音階でピアノ演奏するためには、演奏者は、楽譜の



音を西洋長音階ハ調の順列におけるドレミ等の音（以下、単にドレミ音という。）として認識し、それと同時に、その認識したドレミ音を出す、演奏したい音階の鍵盤を探してその鍵盤を弾かなければならぬいため、それが極めて困難であるという問題があった。

（考案の目的）

この考案は、ある音階で記された曲をその楽譜を見て別の音階で演奏出来るようにした鍵盤楽器の演奏補助具を提供することによって前記問題を解消することを目的とするものである。

（実施例）

以下に、この考案を図面に示す実施例に基づいて説明する。なお、この明細書において左とは第1図左を、右とは同図右をいう。

左右一対の支持台4はピアノ1の鍵盤2の左右側部に形成された固定テーブル状段部3に吸盤5を利用して取付けられるようになされている。なお、吸盤5は必ずしも必要なものではない。支持台4には六角柱の音符等表示体6が以下のよう



な状態で渡されている。即ち、音符等表示体6の左右側部に、後述する音符等表示面7各々に対応するようにしてストッパー嵌入孔8が形成され、これらストッパー嵌入孔8に嵌まるストッパー9がばね付勢された状態で支持台4に取付けられており、これにより音符等表示体6は、所望の音符等表示面7を演奏者に向けた状態で止まるようになされている。六角柱の音符等表示体6にはその軸心に沿うようにして六面の音符等表示面7が形成されており、これら音符等表示面7にはそれぞれ所定の音階の音符が、鍵盤2に対応してドレミ音で表示されている。

なお、音符等表示面7に表示されるものはドレミ音に限定されるものではなく、例えば、鍵盤2に対応して所定の音階における音符を記した五線符を表示するようにしてもよい。また、音符等表示体の形状は二面以上の音符等表示面を有する多角柱又は円柱であればよく、音符等表示体を円柱とする場合は、音符等表示体に被さるカバーを支持台に回転可能に取付け、このカバーに、ひと

つの音符等表示面だけが見えるよう表示窓を形成し、この表示窓が演奏者に向くようにすればよい。さらに、左右側端部の鍵盤2を弾くことは非常に稀であるから、音符等表示体6の長さは必ずしも全ての鍵盤2に対応した長さでなくともよく、その場合は支持台4を鍵盤2に面した立壁10に取付ければよい。

(実施例の使用方法)

次に実施例の使用方法を説明する。

ある音階で記された曲をその楽譜を見て別の音階で演奏するには、先ず、演奏する音階で音符の表示された音符等表示面7が演奏者に向くように音符等表示体6をセットし、然る後、前記楽譜を見ながらその音をドレミ音として認識し、その認識したドレミ音に対応して、音符等表示面7に表示された所定の音階におけるドレミ音が指示する鍵盤を弾けばよい。

(考案の効果)

以上の次第でこの考案によれば、回転自在な音符等表示体6の音符等表示面7にそれぞれ特定の

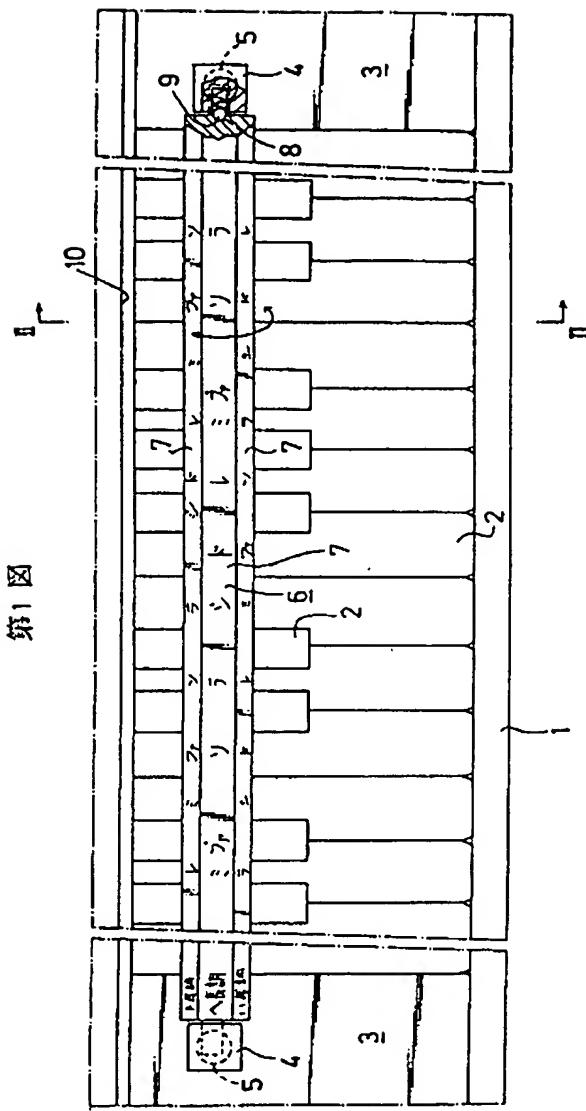
音階の音符等を表示するようにしたので、演奏者は、所定の楽譜を見ながらその音をドレミ音として認識し、その認識したドレミ音に対応して、音符等表示面7に表示された所定の音階におけるドレミ音が指示する鍵盤を弾くだけよく、従来と相違して、演奏したい音階の鍵盤を探す必要がないので、ある音階で記された曲をその楽譜を見て別の音階で演奏するということが容易に出来る。また、音符等表示面7にドレミ音を表示した場合は、楽譜の全く読めない初心者でも、その曲のドレミ音さえ知っていれば、所望の音階でその曲を演奏することが出来るという効果も奏するものである。

4. 図面の簡単な説明

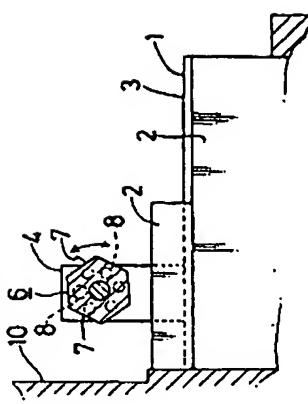
図面はこの考案の実施例を示すものであって、第1図は一部破碎の要部平面図、第2図は第1図II-II線断面図である。

1…ピアノ、2…鍵盤、3…テーブル状段部、
6…音符等表示体、7…音符等表示面、10…立壁。

第1図



第2図



出願代理人 弁理士 大西智夫

1235